

第3回 津市大門・丸之内地区 未来ビジョン策定委員会



開催日時 令和4年12月20日（火）午後2時～午後4時

開催場所 津市センターパレスホール

出席者 【津市大門・丸之内地区未来ビジョン策定委員会委員】

辻 正敏、藤牧 和弘、若原 暁、川口 敏史、三宅 公子、寺家 光弘、
尾崎 晋、木下 学、川合 正、中村 慎吾、辻 伸久、川口 範一、
岩田 英里、奥田 博貴、平西 明日香、藤原 弘典、古澤 忠士、
宮田 雅司、福森 稔

【オブザーバー】

南木 宏和

【事務局】

商工観光部次長 小柴 勝司

都市政策課長 酒井 亮、商業振興労政課長 山口 尚利

都市政策課都市整備・新都心軸担当主幹 畠山 和之

商業振興労政課商業振興担当主幹 西出 智康

都市政策課都市整備・新都心軸担当副主幹 山岡 健司

都市政策課主査 吉村 千尋、都市政策課主事 松村 優里

公開又は非公開 公開

傍聴者 1名

議事次第

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 報 告
 - ・分科会、勉強会の開催結果
 - ・市民から寄せられた意見
- 4 議 題
 - (1) 「大門・丸之内地区 未来ビジョン（素案）」について
 - (2) エリアプラットフォームの体制について
- 5 その他連絡事項
 - ・今後の予定等
- 6 閉 会

議事概要

1 開会

2 委員長あいさつ

3 報 告

- ・事務局より分科会、勉強会の開催結果及び市民から寄せられた意見について報告（資料1、資料2、資料5）

4 議 題

(1) 「大門・丸之内地区 未来ビジョン（素案）」について

- ・事務局より「大門・丸之内地区 未来ビジョン（素案）」について説明（資料3、資料5）

委員から発言いただいた主な意見等は以下のとおり。

- ・リーディングプロジェクトの6項目について旗を振っていくことが重要になる。例えば「空き地・空き家・空き店舗の活用」について、まずは空き家及び空き店舗の実態調査、物件情報の発信、空き店舗等への出店の支援を行っていくことは大事なことである。
- ・リーディングプロジェクトについて、例えば、まず、地区内の歴史的な財産である津観音や津城などを中心に活性化していこうというように、優先順位をつけて何かシンボリックなものを軸にしてまちづくりを進めていく方が良いと思う。
- ・リーディングプロジェクトについて、観音寺と観音公園を人が集まる場にし、その人が津城跡まで回遊することで、その間のまちを活性化させるなど、1つ、2つの目標を目指してそこに向かう案を作った方が良いと思う。
- ・地区内のビルの1階部分を市民などがイベントや展示などに使えるオープンスペースにしたり、大門・丸之内地区の案内の拠点にしたりとするといった活用ができると良いと思う。
- ・丸之内の通りは藤堂高虎をコンセプトにしてまちづくりをしているため、藤堂高虎にまつわるものを展示できる資料館があると良いと思う。

- ・市民による清掃活動やライトアップについて記載があるが、丸之内商店街ではまちをきれいにしたいという思いもあり、毎日清掃活動を実施している。また、ライトアップについては、実施したことがあるが、店舗の売りに結びつかないことなどを理由に継続が難しかった。
- ・リーディングプロジェクトについて、シンボリックなものがあると良いが、会議に参加してみて、1つに絞り込むことの難しさを実感している。この1年でまとめきれないのであれば、「挑戦しつづける」という記載があるように、それを含めて引き続き挑戦を続けてはどうかと思う。
- ・リーディングプロジェクトの立町・大門大通りの実験的な取組について、車を通すという話も出ていたが、5つのコンセプトのうち、「楽しく歩いて回遊できるまち」と逆行するように思うので、その効果が結果として見えるように取り組んでほしい。
- ・地区の強みにも記載されている天むす、いちご大福、蜂蜜まんじゅう、うなぎ料理など地区の有名な店舗の人にも、今後、会議に参加してもらいたいと思う。

(2) エリアプラットフォームの体制について

- ・事務局よりエリアプラットフォームの体制について説明（資料4）
- ・エリアプラットフォームの事業費・資金案について事務局から提案を行い、運営事業費について、主にエリアプラットフォームの各構成員（自治会や市民参画者、国、県を除く）から会費として、年間1万円ずつ集めて運営を行うことが承認された。
- ・令和5年度における立町・大門大通り及び国道23号での実験的な取組の活動事業費に係る費用負担について事務局から提案を行い、各道路沿道に位置するそれぞれの商店街と津市が費用の2分の1を上限に負担することが承認された。
- ・活動事業費の資金について国の官民連携まちなか再生推進事業の補助金に応募について事務局から提案を行い、事務局において、令和5年度のエリアプラットフォーム構築を前提に、先行して補助事業への応募などの手続きを進めることが承認された。

オブザーバーから発言いただいた主な意見等は以下のとおり。

- ・この短期間で色々な人が参画して密度の濃い時間を過ごし、素案がまとまったが、是非ともこの内容を具体化し、持続的に活動をしていただきたいと思う。
- ・今後は計画を作って終わりではなく、ここに謳われた施策を実行して、成果をあげていくことが大切であるが、成果を見るためにも定量的な指標があった方がよい。
- ・施策が動くと総合的にどうなるのか、関連性を持つ課題も出てくるため、ビジョンの見直しなども続けていかなくてはいけない。
- ・施策案は沢山あるが、実施主体として誰が行っていくのかが重要となるので、アクションプランを作り、誰が何のためにやっていくのかを明らかにして取り組んでもらいたい。
- ・将来像、エリアごとの将来像、全体の目標、コンセプト、施策が記載されているが、どんな将来を目指すのかが分かりづらい部分がある。また、それぞれの関連性も少し分かりづらいように感じた。

5 その他連絡事項

- ・第4回目の策定委員会については3月下旬に開催を予定

6 閉 会